



**地域のみなさんへ恩返し
備前焼チャリティ展の売上を全額寄付**

5月29日、備前焼作家の柴岡正志さん（備前市）ら4名が、ゆき作業所に仙養ヶ原ふれあいの里ま

さばの夢工房で行われた備前焼チャリティ展の売上を全額寄付されました。

備前焼チャリティ展では、約100点の湯飲みやマグカップ、小鉢などの作品が出品され、市場価格の半額以下で販売されました。

岩谷靖行さん（神石よつば会理事長）は、「心から感謝しています。予算が厳しい中、有効的に活用していきます」と、お礼を述べられました。



若者たちも増加しているとの成功事例に、80名余りの参加者は熱心に聞き入っていました。

その後、5つの班に分かれたワークショップ*では、神石高原町を丸ごとブランド化するには？などのテーマについて積極的なアイデアが出されました。このワークショップはリーダー研修も兼ね、3回開催される予定で、次回は6月。まちづくりのヒントが生まれることを期待します。

*参加者が専門家の助言を得ながら問題解決のために行う研究会。

まちづくりの知恵とアイデアを



地域の資源や特性を活かし、まちづくりにつなげようとして、「公（こう）」「ティネーター育成研修が5月23日、三和公民館で開催されました。島根県海士町の山内道雄町長が「小さな島の挑戦」と題し講演。海・潮風・塩をキーワードに島ブランドを売り出し、1ターンの

～看護の心をみんなの心に～
「看護の日」イベントを開催しました



5月12日（火）、町立病院外来フロアで看護部主催の「看護の日」イベントが開催されました。「看護の心をみんなの心に」をテーマに、AEDを使った救急蘇生体験、血圧・体脂肪測定、振動マシン・減塩食を体験しながらの栄養指導やソーシャルワーカーの医療福祉相談などが行われ、120名を超える参加者がありました。

参加された方からは、「体重を減らさんといいん」「食事を考えんとなあ」「減塩味噌汁はおいしいですね」などの声があり好評でした。



AED 救急蘇生体験



減塩味噌汁の試食

※「看護の日」とは、国民の看護及び看護職に対する理解を深めるとともに、その社会的評価を高めていくための日です。

※AED（自動体外式除細動器）とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための一般の方でも使用できる医療機器です。町内では、役場本庁及び各支所、油木高校、各中学校等へ配置しており、今年度は各小学校へも配置する予定です。



親子でこころのふれあいをブックスタートが始まりました

町では、絵本を通して赤ちゃんのこころと言葉を育もうと「ブックスタート」の取り組みを始めた。

9カ月健診を受ける時、絵本の会「ゆきんこ」のみなさんによる絵本の読み聞かせや、家庭での本を通じた親子でのふれあいについて話し合い、町から赤ちゃんに絵本のプレゼントをします。

今回参加された方は「これを機会に子どもに絵本を読んであげたい」と話され、絵本を前に親子で楽しい時間を過ごしました。



「神雷」全国新酒鑑評会 金賞受賞

三輪酒造の「清酒「神雷」大吟醸酒」が先月行われた、平成21年度全国新酒鑑評会で、見事金賞を受賞されました。

原料に山田錦米を贅沢に使用し、すべて手作業で醸造されています。今年の「神雷」は上品な味でバランス良く仕上がりが、7年振りの金賞受賞となりました。

町内の酒販売店、福山市内でも販売されています。みなさんぜひ飲んでみてください。



地域の皆さまへ

病院長 原田 亘

この度4月1日に神石高原町立病院が開院致しました。新たな町立病院の理念は「地域の皆さまに愛され信頼される、地域に開かれた病院の構築」です。

町立病院の規模および機能は旧県立病院を基本的に踏襲しますが、より地域密着性を高めた病院へと変わります。

地域住民参加の健康学習会（まめくらぶ）の開催や病院報定期発行も引き続き行い、地域住民の皆さまの健康管理に役立つ情報や話題などを発信しています。今回新たに「医療福祉相談室」を設けました。患者や家族の皆さまの入退院に係わるあらゆる相談に対応するようMSW（医療福祉相談員）を配置しています。従来の病診連携室機能と併せ、今まで以上に地域の実情にあった切れ目の無い医療介護福祉の連携と提供をめざします。

町立病院のサポーター的「かがやき会議」も立ち上げていただき、町民の皆さんの声をどんどん反映していく予定です。ご理解、ご協力を引き続きお願いいたします。

町立病院のホームページ(<http://www.youseikai-grp.jp/jth/>)ができましたので、ご利用ください！